

指導資料



鹿児島県総合教育センター

音楽 第31号

—中学校対象—

平成16年5月発行

音楽の基礎的な能力を伸ばす鑑賞活動の在り方

鑑賞活動は、多様な音楽に興味・関心をもたせ、生涯にわたって音楽に親しむために重要である。『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説—音楽編—』に述べられているとおり、音楽の基礎的な能力とは、音楽を形作っている諸要素を感受する能力であり、それは特に鑑賞活動を通して育成される。

また、中学校では音楽科の授業時数も縮減され、限られた時間の中で表現活動との関連を図った鑑賞活動を、どのように展開するかが課題であるとともに、音楽科における基礎的な能力を伸ばす指導と評価をどのように具体化するかが求められている。

そこで、本稿では生徒の興味・関心を高め、音楽活動の基礎的な能力を伸ばす鑑賞活動の在り方について、事例を交えながら述べる。

1 音楽を形作っている諸要素を感受する能力とは

辞書によれば、「感受」とは「外界の刺激や印象を受け入れること」とある。音楽で言う、「外界の刺激を受け入れる」とは音や音楽による刺激を受け入れ、音色、リズム、旋律、音と音のかかわり合い、形式などの構

成要素と、速度、強弱などの表現要素からなる構造的な側面を知覚することである。また、「印象を受け入れる」とは、雰囲気や曲想、美しさ、豊かさなどの感性的な側面を感じ取ることでありと考える。

この音楽における鑑賞のプロセスは、楽曲のもつ雰囲気や直観的で総合的な把握からスタートし、構造的な側面の知覚と感性的な側面の感受が相互に関係付けられるなどし、認知・理解され、反応・表現に至る。これを図で表すと、図1のようになると考える。

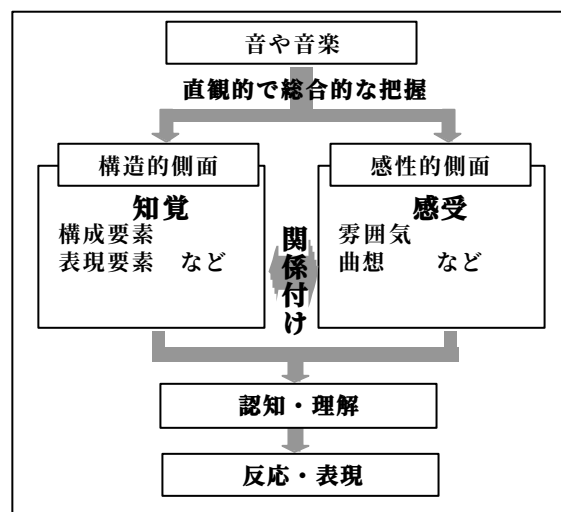


図1 音楽における鑑賞のプロセス

2 鑑賞活動における指導と評価の基本的な考え方

鑑賞活動とは、音楽を聴き、音や音楽から能動的によさや美しさを感じ取り、自分なりに価値付け、味わうことである。指導と評価に当たっては、次のような教師の基本姿勢が大切となる。

- (1) 音楽の構造的側面において、どの生徒にも知覚できるようにすることを尊重する一方で、雰囲気、曲想、美しさ、豊かさなどの感性的側面においては、生徒が音楽とのかかわりから導き出した独自のものや生徒一人一人が感じたこと、発見したことが含まれるので、それらを尊重した指導を行うことが大切である。
- (2) 音楽の背景にある文化的側面の理解は、生徒自身が音楽のイメージを膨らませるためのヒントであり、音楽の美しさや豊かさを感じ取るための助けとなるものである。そこで、教師から一方的に教え込むのではなく、鑑賞を進める上で、生徒自身が音や音楽と関係付けることができるように指導することが大切である。
- (3) 観点別評価の観点「音楽的な感受や表現の工夫」は、表現と鑑賞のどちらの活動にも含まれており、この観点は、生徒自らが表現を工夫し、より素晴らしい演奏を目指して活動に取り組むことをねらいとして示されたものである。その活動を支えているのが、音楽的な感受の能力であり、それは、鑑賞の活動を通して育成されるものである。各学校では、この観点の趣旨をよく理解し、生徒の情意面の変容を形成的にとらえ、個に応じた指導を行うことが大切である。
具体的には、一題材、一単位時間の授業

の構想を立てる段階において、生徒がどのような要素がかかわり、音楽の仕組みがどのように働くのかといった構造的な側面に気付く（知覚する）ことができるのか、また、音楽の諸要素や仕組み（音と音とが連なり、何らかのまとまりをもって形作られていること等）の働きによって生み出される音楽の曲想や雰囲気などの感性的側面を感じ取ることができるのか（感受）といったことなどについて、生徒の言葉で想定しておくことが必要である。

3 音楽の基礎的な能力を伸ばす具体的方策

音楽の基礎的な能力を伸ばすことについて、具体的には次のような視点から工夫することを提案する。

視点1 表現と鑑賞の有機的な関連を図る。

表現と鑑賞が表裏一体であり、有機的な関連を図ることの重要性はこれまでも言われてきたことである。

例えば、ホルスト作曲の組曲「惑星」の「木星」をリコーダーで重奏したり、合奏したりして、主題や曲の感じをつかみ、それから管弦楽による演奏を聴くことで、オーケストラの楽器の音色や響きの多彩さ、迫力などを感じ取らせることなどはよく行われている。

つまり、表現と鑑賞の有機的な関連を図るということは、とかく静的で受動的になりがちな鑑賞の活動を、動的で能動的なものにすることができるとともに、生徒の内面の変容を表出させることで教師が評価し、個に応じた指導を行うことができるという

二つの意義があるのである。

小学校低学年では、音楽に合わせて歩く、踊るといった身体表現に取り組んだり、演奏場面を映像で視聴しながら演奏するまねをしたりする。ところが、中学生は全身的で感覚的な身体表現は、なかなかやりたがらない。そこで、聴いて、気付いたことが表れるような反応（手を挙げる、手を頭の上に載せる、何かのポーズをさせるなど）をさせたり、指揮の役割や意味を押さえながら指揮の活動に取り組ませたりすることが考えられる。

視点2 比較鑑賞の仕方を工夫する。

諸要素や音楽の仕組みの働きの気付かせるためには、比較鑑賞させることが効果的である。

小学校では、楽曲の一部をレガートで演奏した場合と、スタッカートで演奏した場合を比較させ、どちらがこの楽曲に合った表現であるかを考えさせるなどの工夫が考えられる。また、中学校では同じ題名をもつ感じの違う曲を比較したり、同じ楽曲を違う演奏形態で聴き比べたりするなど、楽曲そのものを比較することが効果的であると考えられる。さらに、同じ楽曲でも違う演奏者によるものを聴くことで、演奏表現の多彩さを味わい、表現の工夫への意欲を高めることができる。

視点3 音楽を感受する力を高める学び合いを活性化する。

それぞれが感じ取ったことについて意見交換を行うことで、音楽に対する多様な感じ方や見方、考え方などに触れることができる。その際、気付いたことや感じたこと

について比較したり、関係付けたりして、お互いの意見交換が活性化するような学習形態を工夫することが大切になる。

4 第1学年題材「情景と音楽」における教材「魔王」の鑑賞活動の具体化

これまで述べてきたことを基に、鑑賞活動に取り組ませる際の三つの視点に沿って、指導と評価の具体化例について述べる。

(1) 表現と鑑賞の有機的な関連について

この教材は歌曲ではあるが、声楽家にとっても難曲であるので、中学校における表現活動として「歌うこと」は困難である。そこで、教科書に日本語の歌詞が示されているので、父、子、魔王の3役を分担し、朗読する活動を設定する。ここでいう朗読とは、音楽の流れに合わせてリズム唱をすることである。まず、3役のそれぞれの部分の役柄におけるポーズを決め、身体反応させながら聴かせる。そうすることで、教師はだれの部分の朗読なのか、しっかりと聴き取れているのかなどを見極めながら評価することができる。

次に、曲を聴きながら楽譜に沿って、日本語の歌詞で無声音によりリズム唱をさせる。そこでは、それぞれの気持ちを想像させながら、なるべく表情を付けてリズム唱をするように指導する。つまり、ここでは、上手に歌うことが目的ではなく、それぞれの気持ちを想像させることが目的なので、何回かりズム唱に取り組ませた後、想像したことを短い言葉で発表させ、

そこにある共通の感情を見出させるようにすることが大切である。

- (2) 比較鑑賞（聴き比べ）の設定について
鑑賞の楽しみ方を学び取れるように、次の二つの方法で比較鑑賞させる。

ア 同じ楽曲を、声種の違う歌手による演奏で聴き比べる。

オペラのアリアと違い、歌曲はいろいろな声種の歌手が歌っても構わない。

そこで、この事例ではソプラノ、テノール、バリトンの三つの演奏を聴き比べる。

イ 違う作曲家による、同じ歌詞を基にした曲を聴き比べる。

「魔王」には、同じ詩に作曲されたシューベルト作曲のものと、レーヴェ作曲のものが有名である。

そこで、この2曲を比較・鑑賞させ、共通点と相違点についてまとめさせた。
(図2)

似ているところは？
○ 魔王がはじめはやさしくてだんだん恐くなっていくところ ○ 子どもがお父さんに求めているときの声 ○ 魔王がやさしく言うときの音楽 ○ 子どもの声がだんだんと大きくなるところ
違うなあと感じる場所は？
○ 魔王がもっともっとやさしくなって恐いくらいになっている時の音楽は甘い感じになっている。 ○ 会話の間の音楽がシューベルトにはなかった。やさしい。

図2 比較鑑賞による生徒の感想

- (3) 感じ取ったことを分かち合う学習形態

の工夫について

(1)でも述べたように、リズム唱に取り組む場面から、父、子、魔王の三つの役割に分けて活動し、深く聴き取るようにする。こうすることで、それぞれの心情の変化といった感性的側面と旋律の流れや強弱の変化など、構成的側面の変化を関係付けて聴き取ることができ、集中して聴き取れるようになった。また、友達の感じたことや気付いたことについての発表を聞き、それぞれの感じ方や考え方に触れ、気付きが広がったり、考えが高まったり、深く感じ取ったりすることができるようになり、その後の学び合いの場でも、それぞれの立場から意見を述べ合うことができた。

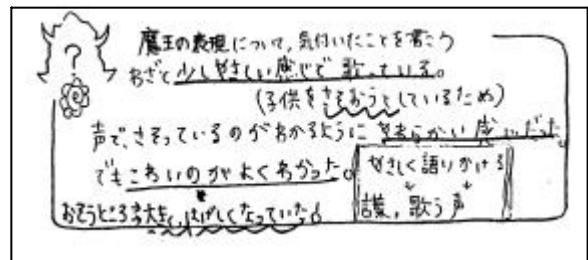


図3 魔王の表現についての生徒の感想

なお、これらの実践の詳細については、当センターのホームページに掲載してあるので活用されたい。

(<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/kari/san-ken/ongaku/minami-jissyo.pdf>)

【引用・参考文献】

吉田町立吉田南中学校 研究紀要 第34号

『生きる力をはぐくむ学習指導』平成14年10月25日

(教科教育研修課)